



平成20年4月3日

各 位

会社名 株式会社 J - オイルミルズ
代表者名 代表取締役社長 佐々木 農二
(コード番号: 2613 東証・大証第1部)
問合せ先 経理部長 立見 健一
(TEL 03 - 5148 - 7100)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年11月12日の中間決算発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 186,500	百万円 5,700	百万円 6,800	百万円 4,200	円 銭 25.13
今回修正予想(B)	190,500	3,200	4,200	2,500	14.95
増減額(B-A)	4,000	2,500	2,600	1,700	10.18
増減率(%)	2.1	43.9	38.2	40.5	-
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	163,393	6,035	6,954	4,508	27.02

2. 平成20年3月期個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 175,500	百万円 4,500	百万円 4,500	百万円 2,500	円 銭 14.96
今回修正予想(B)	179,000	2,000	2,200	1,200	7.17
増減額(B-A)	3,500	2,500	2,300	1,300	7.79
増減率(%)	2.0	55.6	51.1	52.0	-
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	152,079	5,032	4,928	3,338	19.97

3. 修正の理由

当期は、主要原料である大豆及び菜種の国際相場が予想をはるかに超える高騰を続け、2008年に入るとその騰勢を更に強め、3月初めにはシカゴ大豆が16米ドル/ブッシェル、ウィネベグ菜種が800加ドル/トンという未曾有の水準に迫る勢いで高騰しました。しかし期末にかけ投機筋のポジション調整から、大豆及び菜種とも急落・急騰を繰り返して乱高下いたしました。一方、上昇を続ける海上運賃は、11月頃には125ドルとなり2月にかけて小幅低下するも、過去にない高騰圏内で推移しました。こうした海外相場の高騰影響を受け、原料コストは前年に比べて大幅な負担増となりました。

こうした状況下、当社は、第二期中期経営計画のコストダウン施策及び経費削減策ほかの収益改善策を強力に推進すると共に、お客様に対して製品の安定供給には製品価格の適正化が必須との説明を粘り強く実施しました。第2四半期以降、価格是正の効果が次第に現れてまいりましたが、是正スピードは想定よりも緩やかなものとなりました。その結果、原料コスト上昇を吸収できず、採算悪化を回避するには至りませんでした。

さらに、期末日にかけて海外原料相場は、来年度の米国大豆作付面積の拡大予想などが材料視され投機筋の調整が一気に進み、大豆及び菜種の相場水準が一時的に急落した事や、円高修正が進んだ為替影響もあり、大豆・菜種について低価格に基づく10億円超の多額の評価損失を計上する事となりました。

原料高騰による大幅コスト増による影響を強く受け続けた事に加えて、原料評価損失が発生した事により、予想業績から大きく乖離する見通しが確実となりました為、営業利益以下の利益予想額について、個別及び連結共に減額修正することといたしました。尚、今期末計上する評価損失は、来期に振り戻される為、来期の収益に加算修正されます。

なお、当期の配当につきましては、当初の予定を変更せず、期末1株当たり3円(年間6円)を実施する予定であります。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上